

動物と楽しく暮らす虎の巻



家庭動物

飼育の一般原則

愛情をもって 終生飼育しよう

ペットは家族の一員です。最期まで愛情をもって飼育しましょう。

寿命は10年以上。
体長は2メートル
にもなるよ。



動物をよく理解しよう

動物の種類ごとに本来持っている性質をよく理解することが共に楽しく暮らすための第一歩です。寿命や繁殖行動、生活様式や病気のことなど、家庭のペットについてよく知っておきましょう。

見かけて
判断しないで！
僕ってけっこう
乱暴者なんだ。



責任をもって 管理しよう

ペットが地域社会の人気者になるか、嫌われ者になってしまうかは、飼い主しだい。責任は重大です。家庭のペットは家族全員できちんと管理しましょう。

**！ 15年後は
どうなっている？**



動物を飼う時には、その動物の寿命に応じて、将来の見通しを立てる必要があります。たとえば犬であれば15年後、家族や住まいは飼育に適した状況であるかどうか考えてみましょう。

動物と楽しく暮らすツボ

飼い主が分かるように印をつけよう
印のつけ方アレコレ

ペットの健康状態に注意しよう
ホームドクターを決めよう

地域の生活環境に配慮しよう

周囲に迷惑をかけないために

【鳴き声・悪臭と八工・抜け毛（羽毛）の飛散】

繁殖制限（去勢・不妊手術）をしよう

ペットが逃げ出さないようにしよう

花火や雷が鳴っても大丈夫？

ペットによる事故を防ごう

節度あるふれあいを心がけよう

動物の虐待は犯罪です

気付かないうちに虐待していませんか？



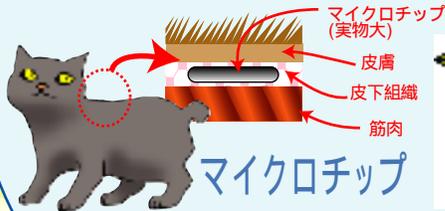
くわしくはここ
をめぐってね

印のつけ方イロイロ

動物につける印は、外れにくくて動物に苦痛のない方法を考えましょう。犬や猫などの哺乳類で一般的なのは、首輪と名札です。鳥類では脚環などがあります。その他に、海外ではマイクロチップや入墨といった方法も実施されています。

名札と鑑札

防水できるカバーのついたものが便利



飼い主が分かるように
印をつけよう

ペットには飼い主の名前や連絡先を書いた名札や脚環など、外れない方法で常に印をつけておきましょう。犬であれば、登録の鑑札が印代わりになります。

ペットの健康状態に

注意しよう

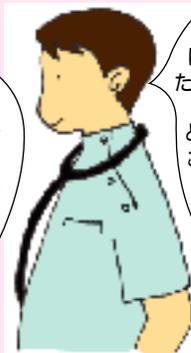
- (1) 動物は自分の体調を言葉で訴えられないため、飼い主には注意が必要で、食欲が無い、水をいつもよりたくさん飲む、糞や尿の色や量が普段と違う、なんとなく元気がないなど、日頃から様子をよく観察して「変だな」と思ったらすぐに動物病院に相談しましょう。
- (2) 日本では、フィラリア症（Q2を参照）をはじめ、予防しないと動物が死にいたる伝染病がいくつかあります。動物の種類によってかかる病気も違うので、動物病院で相談して予防しましょう。
- (3) 動物につくノミやダニは、人間に被害を与えることもあります。ペットと飼いが快適に暮らすためには、予防が大切です。また、ダニは様々な病気を媒介しますので、動物を草むらなどであそばせる時には注意が必要です。

ホームドクターを決めよう

動物を飼い始めたら、まずホームドクター（いきつけの動物病院）を決めましょう。飼い始めたときの健康診断をはじめ、去勢・不妊手術、各種予防注射、毎年のフィラリアのお薬、病気の治療から問題行動の相談まで、ペットとの生活を総合的にサポートしてもらうことができます。



は良かったですがおかしいので診てください。



オになりましてね。その後、の具合はどうですか？ これからの飼育のポイントは.....etc.

ホームドクターならば、既往症（以前にかかった病気）も考慮しながら治療が進められます。

周囲に迷惑をかけないためには？

ポイントは 糞尿の放置による悪臭やハエなどの発生、鳴き声、 抜け毛（羽毛）の飛散を防ぐことです。

鳴き声

動物の鳴き声には何か原因があるはず。病気が原因の場合もありますし、飼育場所の環境が問題なのかもしれません。原因を取り除くことで、不要な鳴き声をなくしましょう。

防衛

テリトリーに近寄るな!!

やんのか? ころ~っ

闘争

へイ!彼女こっち向いて~

繁殖

要求

散歩に行きたいよ

お腹すいた!!

悪臭とハエ

飼い主は気にならないニオイでも、周辺の人には耐えられない場合があります。特に、尿は土などに染み込むと取り除くことができないので、注意が必要です。また、清掃が不十分だとハエなどの害虫も発生しますから、飼育場所は毎日清掃し、動物も人も快適に暮らせるようにしましょう。

抜け毛

(羽毛)の飛散

抜け毛（羽毛）の飛散は、飼育場所の清掃が不十分であったり、ブラッシング後の処理が適切でないことが主な原因です。抜け毛は排水溝が詰まる原因となったりもしますので、ブラッシングするときには最後まで充分気をつけましょう。

すぐに片付けよう

飛び散らないように注意!!

周辺の生活環境に

配慮しよう



去勢・不妊ってどんな手術？

繁殖制限

(去勢・不妊手術)をしよう

動物は健康であれば子が生まれて増えますが、無計画に増やされた動物が、人間の身勝手です。毎年、数多く死にいたっています。

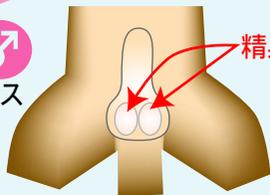
健康な時に全身麻酔で手術します。オスの場合は精巣(睪丸)を、メスの場合は卵巣と子宮(または卵巣のみ)を摘出する手術です。一泊の入院か日帰りで手術を受け、約10日後には抜糸して元通りの生活ができますようになります。

犬の場合

仰向けにしたところ



オス



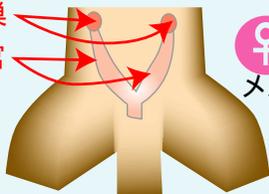
精巣

卵巣

子宮



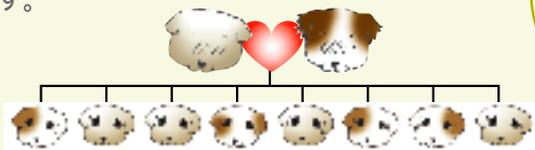
メス



また、動物の数が増えると健康管理や世話などがどうしても行き届かなくなり、周りの人の迷惑になることが多いのです。ペットには去勢・不妊(赤ちゃんのできない)手術を実施しましょう。手術をすると、性格が穏やかになつて飼いやすくなり、また生殖器の病気の心配もなくなります。(Q3~Q5を参照)

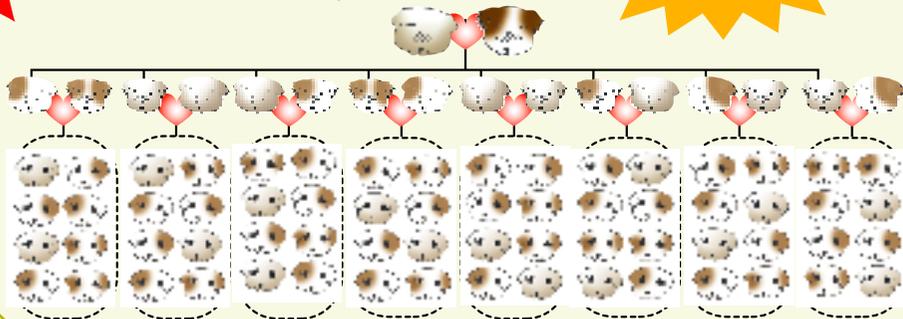
去勢・不妊手術をしないとどうなるの？

例えば犬の場合、平均八つのおっぱいがあるので、一匹のメスと一匹のオスからたくさんの子どもが生まれます。



そして、あっという間に子どもは大きくなって、また子どもを産んでどんどんふえていきます。

こんなにたくさんは飼えません!!



ペットが逃げ出さないようにしよう

動物が逃げ出して事故にあつたり、他人に迷惑をかけたたりしないように、それぞれの運動能力や体型に応じて、つなぐ、囲うなどの工夫をしましょう。使用する鎖や柵は、使い続けるうちに緩んだり壊れやすくなったりしますから、定期的に点検しましょう。

カンは閉じているか？

革はすり切れていないか？



継ぎ目はゆるんでいないか？

ペットによる事故を防ごう

ペットによる事故（かみつく、引っかく、飛びついてけがをさせるなど）を予防するため、ペットの性格や運動能力をしっかり把握して正しく管理しましょう。万が一、ペットが他人や他人の持ち物に被害を与えたときは、飼い主が責任を取らなくてはなりません。

雷や花火が鳴っても大丈夫？



動物は一般に耳が敏感なので、雷や打上げ花火の音を聞いてパニック状態になることがしばしばあります。パニック状態になった犬は、普段からは想像もつかないような力を出しますので、鎖や柵はより頑丈なものを選んだほうが安全です。また、前もって花火や雷が予想される日には室内に入れておくなどの工夫をしてもよいでしょう

節度あるふれあいを心がけよう

健康な動物でも、人に感染する病原体を持つている場合があります。口移しで食べ物を与えることや、食器の共有は避け、動物と遊んだ後には手を洗う習慣を身につけ動物由来感染症（Ｑ６を参照）を予防しましょう。

気付かないうちに虐待していませんか？

体罰 エスカレートすると虐待と同じです。



上リや水 残っていても毎日取り替えましょう。



くさってて飲めないよ

首輪などの身につけるもの

首輪などは成長にともなうサイズを変える必要があります。適正サイズは指が2本入る程度です。



動物の虐待は犯罪です

動物を虐待すると法律で罰せられます。虐待とは、傷つけたり殺したりすることのほか、エサや水を与えずに衰弱させることも含みます。

正しく知って楽しく暮らそう【Q&A】

Q1 一緒に暮らせる動物って何匹まで？

A1 動物の適正な飼育頭数は、飼い主の家庭の状況、健康状態や経済状態によって変化しますが、目安として「災害が起こったときなど、いざという時に連れて逃げられる数」を参考にするとよいでしょう。また、万が一のときにそなえて、輸送用のケージを用意しておきましょう。犬や猫には、ケージに馴れさせるハウストレーニングなどの日頃からの訓練も必要です。

Q2 フィラリア症ってどんな病気？

A2 フィラリアとは蚊によって感染し、犬の心臓内に住みつく寄生虫です。日本では予防をしないとほとんどの犬が感染してしまい、最悪の場合死にいたりします。愛犬と未永く幸せに暮らすために、毎年蚊の季節には予防が欠かせません。

Q3 去勢・不妊手術はいつ頃すればよいのでしょうか？

A3 去勢・不妊手術の時期については大きさや種類、健康状態にもよりますが、犬や猫の場合、早いものでは生後5ヶ月程度で赤ちゃんができるようになりますから、早めの手術が肝心です。飼い始めたらすぐに動物病院へ相談しましょう。

Q4 一度は出産させたほうがよいと聞きましたが？

A4 「雌には一度は出産させたほうがよい」という考えは迷信です。科学的根拠はありません。また、生まれた子が全て、適正に飼育できる人にもらってもらえるとは限りませんね。悲しい命を作らないためにも早めに去勢・不妊手術をしましょう。

Q5 雄も手術しなくてはいけませんか？

A5 「雄は子供を産まないし、かわいそうだから手術しなくていい」というのは人間の勝手な思い込みで、去勢していない雄の繁殖に関わるストレスはとても大きいのです。また雌の発情に反応して激しく吠える、逃走するなどトラブルは絶えません。動物は雄と雌がいて赤ちゃんができるのですから、手術は雄も雌もすることが必要ですね。

Q6 動物由来感染症とは？

A6 動物由来感染症とは、動物から人に感染する病気の総称です。ペット動物から感染する可能性のある病気としては狂犬病、パストレラ症、回虫症、猫ひっかき病、トキソプラズマ症、Q熱、オウム病、サルモネラ症などがあります。これらの感染症の最も有効な予防方法は、節度あるふれあいです。また、普段からの動物の健康管理も重要です。